

資料室

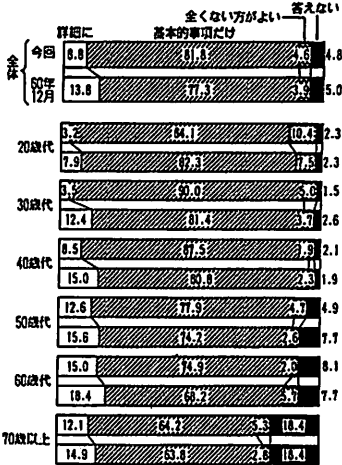
【資料1】

「校則」についての成人の意識

(読売新聞社全国世論調査88.5.21より)

校則をどう考えるか

(数字は%、上段は今回の調査、下段は80年12月調査)



質問と回答

(数字は%)

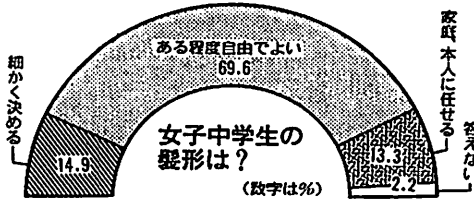
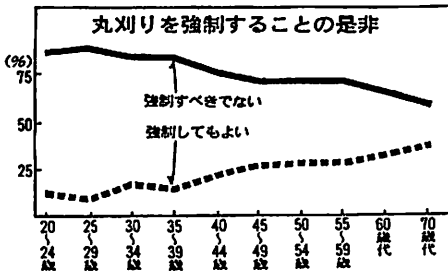
- ◆あなたは、中学校や高校の規則、いわゆる「校則」に関心がありますか、ありませんか。
 - ・大いに関心がある 22.9
 - ・あまり関心がない 25.3
 - ・答えない 1.1
 - ・多少は関心がある 43.5
 - ・全く関心がない 7.2
- ◆あなたは「校則」について、どうお考えですか。次の中から、あなたのお考えに近いものを一つだけあげてください。
 - ・学校生活の規則だけでなく、学校外の生活面にも及ぶまでなるべく詳細に定めておいた方がよい 8.8
 - ・ある程度の規則は必要だが、基本的事項にとどめておいた方がよい 81.8
 - ・生徒の自主性を尊重するためにも、全くない方がよい 4.6
 - ・答えない 4.8
- ◇【前問で「必要だ」と答えた人だけに】あなたは、「校則」はどんな形で決められるのが望ましいと思いますか。次の中から、一つだけあげてください。
 - ・教務委員会と教師で決める 6.8
 - ・教師と父兄で決める 8.6
 - ・教師だけで決める 3.0
 - ・教師と父兄、生徒で決める 43.3
 - ・生徒と生徒で決める 30.4
 - ・その他 0.6
 - ・生徒の自主的判断で決める 5.0
 - ・答えない 2.2
- ◆あなたは、中学生や高校生に制服は必要だと思いますか、そうは思いませんか。
 - ・必要だと思う 81.0
 - ・そうは思わない 16.2
 - ・答えない 2.8
- ◇【前問で「必要だ」と思う」と答えた人だけに】あなたが、制服は必要だと思う理由は何か。次の中から、一つだけあげてください。
 - ・不潔化防止に役立つ 11.5
 - ・愛着を持たせる 5.8
 - ・父母の経済的負担が軽くなる 27.5
 - ・その他 2.4
 - ・中、高校生らしいから 51.7
 - ・答えない 1.0
- ◇【前問で「そうは思わない」と答えた人だけに聞く】あなたが、制服は必要だとは思わない理由は何か。次の中から、一つだけあげてください。
 - ・同じ服を着たきりでは不潔 5.4
 - ・私服でも中、高校生らしさは保てる 50.4
 - ・制服はかえって高くつく 3.8
 - ・個性や自由が否定される 36.6
 - ・その他 3.5
 - ・答えない 0.3
- ◆主に中学の場合ですが、学校によっては男子の頭髪を「丸刈り」と定めているところがあります。あなたは、学校の規則で丸刈りを強制してもよいと思いますか、それとも強制すべきではないと思いますか。
 - ・強制してもよい 22.7
 - ・強制すべきではない 73.7
 - ・答えない 3.6
- ◆女子中学生の髪形を学校側で決めることについて、あなたは、どう思いますか。次の中から、一つだけあげてください。
 - ・形、長さなど細かく決めておいた方がよい 14.9
 - ・パーマをかけたり、染めたりすることは禁止して、その他のことはある程度自由でよい 69.6
 - ・髪型や本人にまかせろ 13.3
 - ・答えない 2.2
- ◆あなたは、小・中学校の児童・生徒の「服装」や「髪形」、「学校生活の規則」などの面で、ここ2、3年、学校の指導や管理が厳しくなってきたと思いますか、そうは思いませんか。
 - ・非常に厳しくなってきた 6.8
 - ・どちらかといえば厳しくなってきた 32.2
 - ・厳しくなってきたとは思わない 46.0
 - ・答えない 15.0
- ◆あなたは、いまの小・中学校の先生を信頼していますか、信頼していませんか。
 - ・大いに信頼している 11.9
 - ・あまり信頼していない 28.3
 - ・多少は信頼している 49.8
 - ・全く信頼していない 2.6
 - ・答えない 7.4
- ◆お知りには、現在、次にあげるようなお子さんがおられますか。すべてあげてください。
 - ・未就学の子供 16.3
 - ・高校生 16.3
 - ・小学生低学年 12.7
 - ・大学生・大学院生 8.4
 - ・小学生高学年 13.2
 - ・その他の学校の生徒 0.9
 - ・中学生 17.1
 - ・該当する子供はいない 44.0
 - ・答えない 0.4

関心度

今夏、中学の卒業アルバムから校則を守らなかった生徒の顔写真をはずすという事件が話題となり、文部省でも部活動振興センターに対して「校則の見直し」を指示しているが、保護者の間で、親世代への関心が高まっている。今回の調査でも、多くの保護者が「関心があるか」「関心はどのくらいか」と「答えない」を合わせた関心レベルは68%と三分の二のほど。

子供持つ40歳代 最高の78%

「関心」を合わせた関心レベルは、北北北、関東(66%)、小田原(72%)、町村(69%)と比較的多い。男が前回は65%よりやや多い。年齢別では、十歳以上で関心レベル(69%)が関心レベル(69%)より下回っているものの、関心レベルは子供を持つ四十歳代(78%)、三十五代(72%)で初めて高



年代	必要 (%)	必要ではない (%)	否れない (%)
全体	97.3	9.5	3.2
20歳代	97.1	18.1	2.6
30歳代	97.9	10.0	2.3
40歳代	97.1	8.8	2.3
50歳代	90.6	5.3	3.1
60歳代	89.9	4.0	6.1
70歳代	98.3	6.4	5.3

上段は54年5月調査 下段は63年5月調査

「読売」88.6.15

【資料2】

63年度新潟県の大学進学率

県教育委員会は六十三年度の大学進学状況調査結果をまとめた。それによると、今年度(現役)の志願率は三三・一%、前年を上回りの入学達成率は五八・三%と、前年より一・六%低下した。達成率のダウンは三年連続。現役の大学進学率は一九・三%と全国最下位だったが、専修学校等への入学率は三〇・六%で、全国八位と上位に並んでいる。予備校に入った浪人生は三千六百八十四人で、前年に比べ約二百五十人増えた。

この調査は、県内の高卒者を対象に、五月一日現在で、卒業後の志願、進学状況などを調べた。その結果を見ると、

▽卒業後の状況 今春の卒業生数は三万二千七百十人で、前年より九百八十八人減った。このうち、大学等への進学者は六千三百四十四人で、前年より六十八人減ったが、専修学校等への入学者は九千九百九十九人、三千三百二十人増加。実学志向の強さを浮き彫りにした。就職者は一万五千八百九十九人。

現役の大学進学率は一九・三%(男一七・二%、女二二・四%)。前年比〇・四%上昇したものの、前年同様、全国最下位を脱出できなかった。学校別進学率は、大学学部一・〇%、短期大学学部八・二%。県別別では、県内六・六%、県外二・六%。

▽大学願状況 現役、浪人を合わせた大学への志願者は一万四千八百人(前年比五・一%)で、全体の七六・一%を占めた。また、県内大学への志願者は四千三百三十九人で全体の三一・二%の割合。県外大学への志願者は四千七百七二・〇(東北七・四%)の順だった。

▽大学進学状況 現役、浪人を合わせた大学進学総数は九千三百四十四人で、前年より九十一人増加した。このうち、現役は六千三百四十四人で、約七割を占めた。学校別にみると、大学学部への進学者は六千二百七十八人、前年より〇・六%減少した。

さらに、入学達成率(志願者に対する進学者の割合)は六二・二%で、前年度に比べ一・六%ダウン。現役の達成率は五八・三%、浪人は七二・七%。学校別では大学学部は五七・七%、短期大学学部は八二・八%となった。

▽専修学校等の入学状況 入学者九千九百九十九人の内訳は、専修学校専門課程が五千四百五十一人(構成比五四・一%)、各種学校四千三百四十四人(四一・三%)、公共職業訓練施設二百九十九人(二・九%)。分野別では予備校(大半は専修学校)が三千二百八十四人、専修学校八百四十八人、医療系三百一人、高卒生四百一人の順だった。

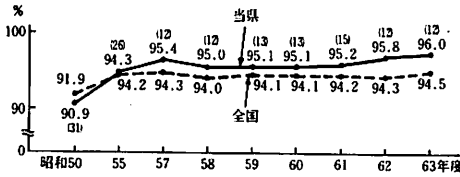
63年度大学等進学状況(詳報)
進学率また最下位
実学志向くつきり

進学率等の推移

(当年度3月卒業者)

1 高等学校等進学率の推移

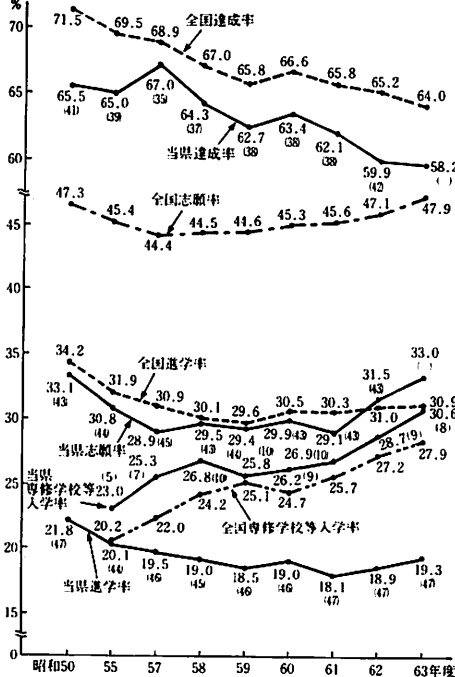
(新潟県学校基本調査)



昭和63年度高等学校等進学率の都道府県別比較

上位 10県			下位 10県		
順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率
1	富山	98.3	38	宮城	94.2
2	山形	97.2	39	千葉	94.0
3	山梨	96.9	40	茨城	93.7
4	広島	96.7	41	栃木	93.2
5	愛媛	96.7	42	福島	93.2
6	山口	96.7	43	三重	92.5
7	長野	96.5	44	埼玉	92.5
8	鳥取	96.4	45	高知	92.0
9	香川	96.3	46	沖縄	90.8
10	大分	96.3	47	愛知	90.7

2 大学等進学率、大学学部・短大本科への志願率、達成率及び専修学校等入学率



昭和63年度大学等進学率の都道府県別比較

上位 10県			下位 10県		
順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率
1	奈良	42.3	38	埼玉	23.6
2	広島	40.5	39	茨城	23.5
3	兵庫	39.9	40	宮城	23.2
4	愛媛	39.3	41	福島	23.1
5	愛知	38.9	42	山形	22.1
6	香川	38.1	43	秋田	21.4
7	岡山	37.8	44	沖縄	21.3
8	徳島	37.2	45	岩手	20.4
9	福井	36.8	46	青森	20.3
10	滋賀	36.4	47	新潟	19.3

昭和63年度専修学校等入学率の都道府県別比較

上位 10県			下位 10県		
順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率
1	千葉	38.7	38	香川	20.2
2	神奈川	37.9	39	岡山	20.1
3	埼玉	35.6	40	鳥取	20.0
4	東京	35.3	41	青森	19.4
5	長野	31.9	42	愛媛	19.2
6	群馬	30.8	43	島根	18.5
7	沖縄	30.8	44	宮崎	17.7
8	新潟	30.6	45	三重	17.5
9	天城	30.5	46	奈良	16.0
10	京都	29.8	47	徳島	16.0

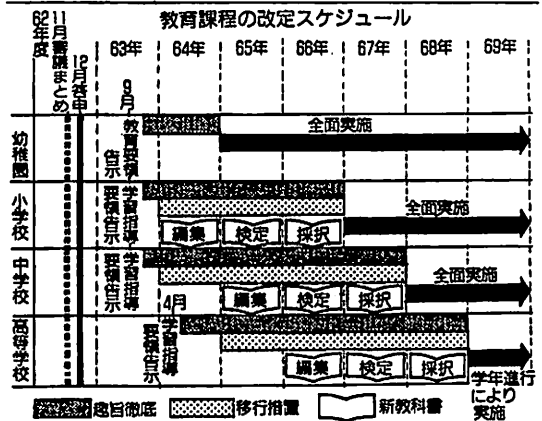
(注) 1 進学率……卒業者数に対する進学者数の割合
 2 志願率……卒業者数に対する志願者数の割合
 3 達成率……志願者数に対する進学者数の割合
 4 専修学校等入学率……卒業者数に対する専修学校等入学者数の割合
 5 昭和63年度の数値は速報数値である。
 6 専修学校等入学者数は昭和50年度は調査していない。
 7 ()内の数字は当県の全国順位である。
 8 昭和63年度の志願率、達成率の順位は未公表である。

【資料3】

教育課程審議会の答申（指導要領「改訂」）

「審議のまとめ」の骨子

▽道徳教育を重視し、副読本使用の奨励措置を講じる。
 ▽高校社会科をなくし地歴、公民の両教科に分ける。
 ▽中学で必修教科の弾力化―選択の拡大を図る。習熟度別指導を採り入れる。
 ▽小学校低学年の社会科、理科を廃止し、生活科をつくる。
 ▽学校五日制は漸進的に導入する方向で検討する。



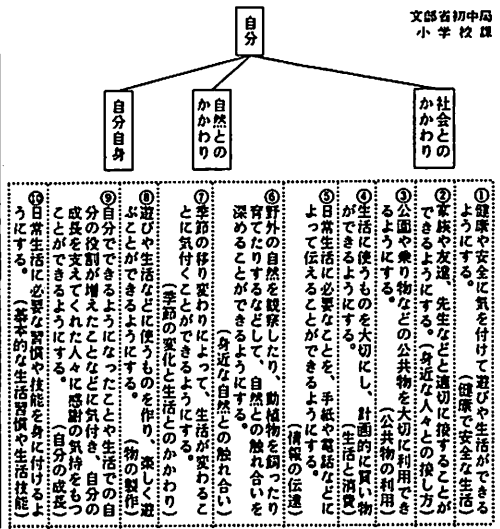
「朝日」87.11.28

中学校の教科等の構成及び週あたり授業時数について

現行				改定案				
学年	1	2	3	学年	1	2	3	
教科等	国社 社会 理科 音楽 美術 保健 体育 家庭 道徳 特別 選択	5 4 4 3 2 2 2 2 2 2 2 3	4 4 4 3 2 2 3 2 1 1 2 3	教科等	国社 社会 理科 音楽 美術 保健 体育 家庭 道徳 特別 選択	5 4 4 3 3 2 2 2 2 1 1 3	4 4 4 3 3 2 2 2 1 1 2 3	4 2~3 3 3~4 1 1 3~4 2~3 2 1 1~2 4~8
合計	30	30	30	合計	30	30	30	
選択教科	○外国語3 ○その他特に必要な教科1			選択教科	○外国語3~4 ○音楽1 ○保健体育1 ○技術1 ○その他必要な教科1			

生活科の内容構成

文部省初・中
小学校課



高校社会科の変遷

変わる高校社会科

現行

	科目	単位数	
社会科	現代社会	4	必修
	日本史	4	
	世界史	4	選択
	地理	4	
	倫理	2	
	政治・経済	2	

新課程

	科目	単位数	
地歴科	世界史A	2	いずれか必修
	B	4	
	日本史A	2	選択
	B	4	
	地理A	2	
	B	4	
公民科	倫理	2	選択
	政治・経済	2	
	現代社会	4	

	必修単位	科目(単位)
1951年 (昭和26年)	10単位 (2科目)	一般社会(必)(5) 日本史(5) 世界史(5) 人文地理(5) 時事問題(5)
1956年 (昭和31年)	9~15単位 (3科目)	社会科社会(必)(3~5) 日本史(3~5) 世界史(3~5) 人文地理(3~5)
1960年 (昭和35年)	普通科13~15 単位 (5科目) 職業科9~12 単位 (4科目以上)	倫理・社会(必)(2) 政治・経済(必)(2) 日本史(3) 世界史A(3) 世界史B(4) 地理A(3) 地理B(4)
1970年 (昭和45年)	10単位 (4科目)	倫理・社会(必)(2) 政治・経済(必)(2) 日本史(3) 世界史(3) 地理A(3) 地理B(3)
1978年 (昭和53年)	4単位 (1科目)	現代社会(必)(4) 日本史(4) 世界史(4) 地理(4) 倫理(2) 政治・経済(2)

「新潟日報」87.11.14

【資料4】

「社会教育法」の転換

社会教育法と生涯学習との比較

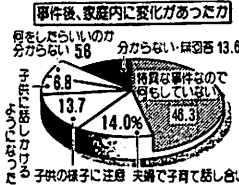
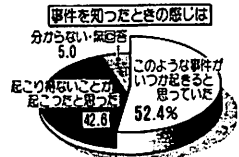
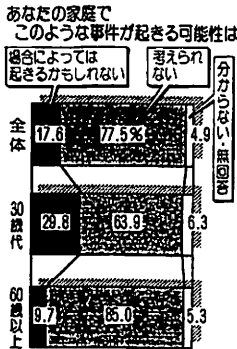
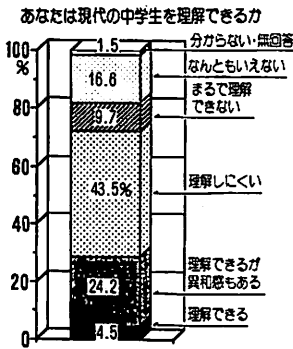
	現行の社会教育法など	生涯学習の考え方
定義	学校教育を除き、主として青少年、成人への組織的な教育活動	家庭教育、学校教育、社会教育、スポーツ、文化などを総合的に整備
国、地方公共団体の任務	すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、みずから実生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努める	どこで、いつ学んでも学習の成果が適切に評価され、多面的に人間が評価されるように人々の意識を社会的に形成していく
推進の主体	市町村教育委員会	国、都道府県教育委員会
社会教育(生涯学習)団体	公の支配に属しない団体で社会教育事業を主たる目的とするもの	塾、カルチャーセンター、情報サービスなど営利企業も含む
対象団体への国などの態度	いかなる方法でも不当に統制的支配、事業への干渉はしない。各団体の「求めに応じ」助言、援助をする	総合的ネットワーク化をはかり、国などの「必要に応じ」、税制上の優遇、文部省の認定制度導入も検討
学校の利用	学校の施設を利用	職業能力開発の場として学校を開放
スポーツ振興	ひろく国民が、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的にスポーツできるよう諸条件を整備。営利のためのスポーツを振興しない(スポーツ振興法)	民間活力の導入等による一定の地域を総合的かつ重点的に整備する

※「生涯学習の考え方」は、臨時教育審議会答申や政府の教育改革推進大綱(1987年10月閣議決定)などによる

「赤旗」88.6.28

【資料5】

「目黒事件」をどう受けとめたかの調査



調査件目 (数字は%)

- 問1 ことし7月、東京・目黒区で中学生が両親と祖母を惨殺する事件がありました。この事件から受けた印象は次のうちのどれですか、あなたの気持ちに近いものを一つだけ選んで下さい。
- 精神、性格異常者の発作 17.0
 - 家庭管理への反逆 35.9
 - ファミコン感覚の劇画的事件 6.2
 - 自分も死ぬつもりだった突如的無理心中 2.1
 - 交際戦争が生んだ悲劇 31.6
 - 袴にイメージはない 5.0
 - 分からない・無回答 2.2
- 問2 あなたはこの事件を知った時、どんな感じになりましたか。起こり得ないことが起こった
- 42.6
 - いつかこんな事件が起きると思っていた 52.4
 - 分からない・無回答 5.0
- 問3 あなたの家庭でも、このような事件が起きる可能性があると思いませんか。
- 場合によっては起きるかも知れない 17.6
 - 自分の家庭では考えられない 77.5
 - 分からない・無回答 4.9
- 問4 あなたは現代の中学生の行動や気持ちが理解できますか。ずなり理解できる
- 4.5
 - 理解できるが違和感を覚える 24.2
 - 理解しようと思うが、理解しにくい 43.5
 - まるで理解できない 9.7
 - なんとなくいえない 16.6
 - 分からない・無回答 1.5
- 問5 あなたが現代中学生の特徴と思うものを次の中から3つ選んで下さい。(複数回答のため、比率の合計は100%を超える)
- シラける 21.5
 - 感性が豊か 10.1
 - すぐ人のせいにする 36.4
 - 物おじしがない 19.5
 - 自分勝手だ 48.9
 - 個性的だ 13.8
 - 金にこだわりの、計算高い 24.3
 - 明るい 10.4
 - 陰湿だ 10.5
 - 物知りだ 8.2
 - 実体験が乏しい 30.1
 - 自立心に欠ける 50.1
 - 分からない・無回答 4.1

問6 あなたは自分の子供がどんな人になって欲しいと思いますか。

- 周囲や社会のために尽くす人 17.5
 - 自分の趣味、能力を生かせる人 49.1
 - いい学校を出て、社会的に高い地位に就く人 18.4
 - 経済的に豊かになることができる人 1.1
 - 平凡でも心豊かに生活できる人 4.5
 - よい 55.8
 - 分からない・無回答 2.7
- 問7 あなたの家庭では親子が互いに信頼合っているといますか。

- 信頼している 40.4
- まあまあ信頼している 44.3
- 信頼したいができない部分、またはできない時がある 18.4
- 全く信頼していない 8.3
- 親や子供がいない 0.1
- 分からない・無回答 4.2

問8 あなたの家庭では夫婦が互いに信頼合っているといますか。

- 信頼している 49.4
 - まあまあ信頼している 33.0
 - 信頼したいができない部分、またはできない時がある 5.0
 - 全く信頼していない 0.3
 - 結婚していない 9.1
 - 分からない・無回答 3.2
- (以下は20歳未満の子供のある人だけに聞く)

問9 あなたは自分の子供たちの心を把握していると思いませんか。第1子についてはどうですか。

- 把握している 48.7
- 把握しているつもりだが、自信がない 44.3
- 把握できない 2.7
- 分からない・無回答 4.3

問10 第2子についてはどうですか。

- 把握している 52.9
- 把握しているつもりだが、自信がない 38.3
- 把握できない 2.4
- 分からない・無回答 6.4

問11 第3子についてはどうですか。

- 把握している 52.9
- 把握しているつもりだが、自信がない 30.2
- 把握できない 2.5
- 分からない・無回答 14.4

問12 あなたと子供のコミュニケーションはどうなっていますか。

- 子供の方から大体何でも話してくれる 49.1
 - 親が尋ねれば答えてくれる 33.7
 - 子供があまり話さないで根拠の裏ほり聞く 3.0
 - 話し合いたいが、時間がない 1.0
 - 話し合うことはない 4.6
 - 分からない・無回答 8.6
- 問13 子供と話す時、どんなことを話題にしますか。次の中から3つを選んで下さい。(複数回答のため、比率の合計は100%を超える)

- 成績 20.4
- 道路 20.9
- 学校生活 48.1
- 友達 56.3
- 服装・髪型 15.9
- 読書作法 9.0
- 趣味・遊び 18.7
- 才能・スポーツ 37.7
- 異性問題 22.9
- 社会・政治問題 3.3
- その他 3.0
- 分からない・無回答 8.9

問14 目黒事件の後、家庭内に何か変化がありましたか、日

- 子供が何を訴えてきたのか、日ごろの様子に注意するようになった 13.7
- 弱めて子供に話し掛けるようになった 6.8
- 夫婦で子育ての在り方について話し合った 14.0
- 何かしなければならぬと思うが、何をしたらいいのか分からない 5.6
- 特異な事件なので何もしていない 46.3
- 分からない・無回答 13.6

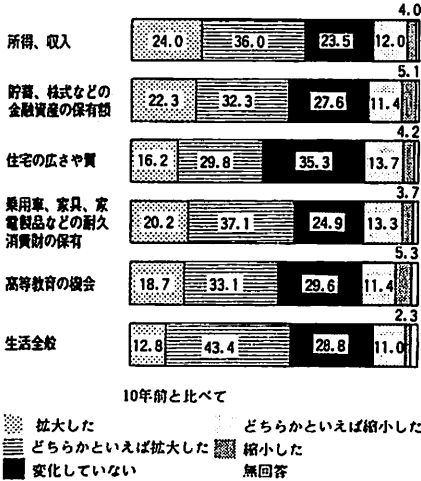
▽調査の方法一調査は、層化二段無作為抽出法によって約8800万有権者の縮図となるように、全国250地点から20歳以上の男女3000人を選び、9月26、27の両日、調査員がそれぞれ調査対象者に直接会って答えてもらった。

調査対象者のうち、転居、旅行、病気などで会えなかった人を除いて202人から回答を得た。回収率は67.4%で、回答者の内訳は男性47.1%、女性52.9%だった。

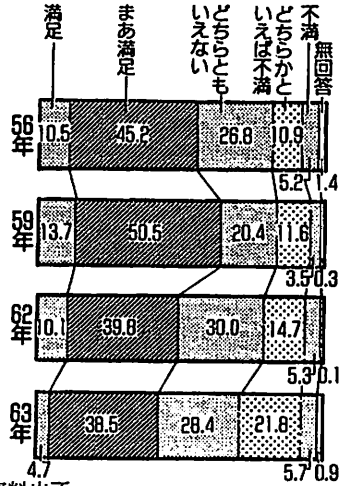
【資料6】

奪われている家庭の団らん

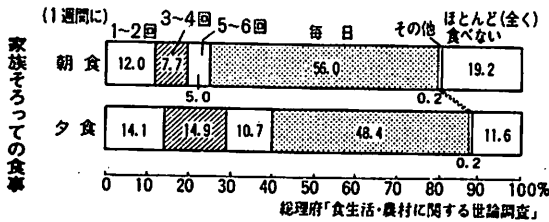
所得階層間格差の動向にたいする認識 (単位: %)



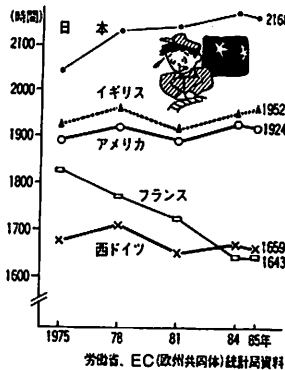
生活に対する満足度 (数字は%)



資料出所 経済企画庁(「朝日」「赤旗」より)

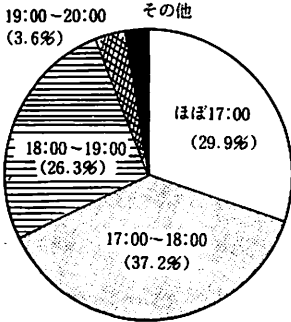


労働時間の国際比較 (製造業)

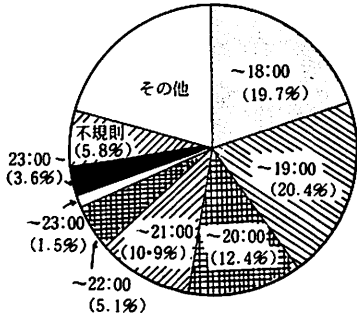


(注) 自衛隊とは 7月8日、東京・目黒区で中学2年生の少年(14)が戦壕中の両親と祖母の3人を金風バット、包丁などで殺害した事件。東京家庭裁判所は精神的に異常はなかった、として10月6日、初等少年院に送致する審判の決定を出し、現在、少年は少年院に収容されている。少年は警察の調べなどに対し、成績が低下して生きることが嫌になった。自分が自殺して死ぬ前にまず家族を殺そうと思った、などと自供している。しかし成績は中程度。クラスではひょうきん者で仲間を笑わせたり、犯行後同級生を犯行現場に連れて行くなど「なぜ殺さねばならなかったのか」という疑問は依然残ったまま。

婦人医療労働者の
実質勤務（日勤）終了時刻



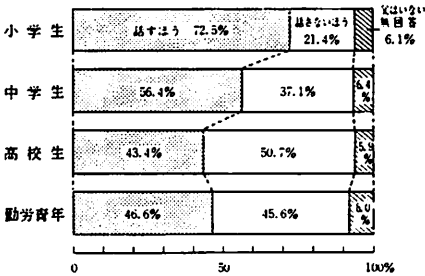
左表の婦人医療労働者の夫の帰宅時刻



- ▽夕食を、毎日家族そろって食べられる……………22%
- ▽そろって食べられるのは、週3回以下……………48%
- ・そろって食べられない理由
- ↓
- ▽自分の帰宅が遅いから……………30%
- ▽夫の帰宅が遅いから……………50%

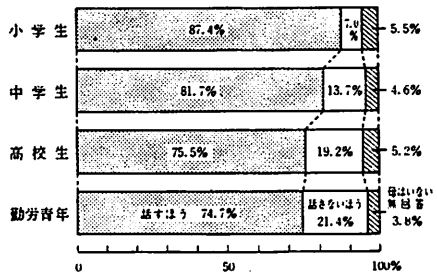
新潟市民病院婦人部調87.11（有効回答137）

父親との対話



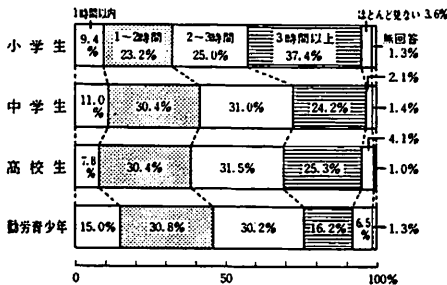
資料出所「実態調査」

母親との対話



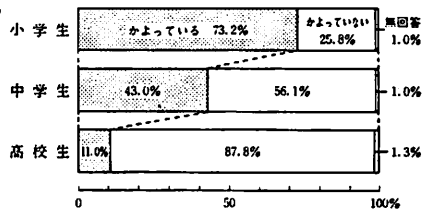
資料出所「実態調査」

テレビの視聴時間（土曜日・休日を除く）



資料出所「実態調査」

塾やけいごと



資料出所「実態調査」

※「実態調査」＝「青少年の生活実態と意識の状況」（新潟県青少年問題協議会1986年）